

# 土壌栽培で強い野菜生産

林修一社長は、工場内の土壌栽培に新たな付加価値の可能性を見いだしている。

「土壌は肥料が多く、養分が豊富な強い野菜ができる」と友利一也営業統括部長。「土壌栽培と水耕栽培による養分の違いを実証したい」と話す。水耕栽培ではレタスや水菜など水分を多く含む野菜、土壌栽培では風味が命のハーブ類や根菜類など、それぞれに適

## 植物工場の可能性広げる

密閉空間で光や温度を制御して野菜を栽培する植物工場。成長の早さから水耕栽培がメーンだが、植物工場のシステムを販売するプラネットファーム(豊見城市、大

完成する。横の長さを蛍光灯の長さと同じに調節し、光を余すことなく植物に当てる。下に敷くマット内には、水を通して土を冷却するため2本の管を通した。

システム販売を始めた背景には、夏場の野菜の約8割が県外産とされる沖縄の現状がある。県産品の安定供給に寄与できる。初めての受注は、13年8月に大宜味村で稼働したおおきみファームだっ



プラネットファームの友利一也営業統括部長(前)とおおきみファームの職員ら=大宜味村のおおきみファーム

同社はより効率的に栽培するため、トレーを独自改良した「スマートファーム」を開発、2月末に

た。同ファームはリーフレタスで年間80万株を出荷可能で、県内最大規模を誇る。4月からレタスやワサビ菜など本格的な出荷を開始する。工場内の3室のうち、2室は水耕栽培、1室は土壌栽培専用。両社が共同で技術開発を進める。友利部長は「今後成分の含有量を数値化していきたい。植物工場は農業以外の他業種からの参入も多い。システム販売後の生産のバックアップにつながる」と提案力の強化を誓う。

(長嶺真輝) (毎週日曜掲載)

## たまごをかえす

沖縄ものづくり

### プラネットファーム

した品種を模索する。観葉植物の栽培・流通、壁面緑化を手掛け、植物の専門家として培った知識を存分に生かす。

鍵を握るのは、土壌栽培用に開発された自動給水機能付きトレーだ。縁が全て貯水タンクになっており、底の穴から常時給水して敷布を湿らす仕組みだ。

## 日曜経済



### 二枚目の名刺 専門生

識やノウハウを駆使して経営基盤の強化や知名度向上といった課題の解決を手助けする。金融マンにメーカー勤務、コンサルタント…。これまで活動に携わった約100人の肩書は多岐にわたる。助産所の経営状況を分析してサービス拡大策を

事業を立ち上げたり、会議を生かして互いに学び合う場をつくらうと、2009年に活動を開始。11年にNPO法人を立ち上げた。「本業で活躍している人こそ、二枚目の名刺でもさらに成果を出せるはず。成長したい人を後押ししたい」。広さの思いは熱い。

### 「カナダドライ」常識覆し、



「冬でも飲んでもらうにホットタイプが不可欠」とえ、市販の炭酸飲料を片っから温めて試飲した。「(を温める) ショウガを印象



【東京】食品販売の渡具知(名護市、渡具知豊社長)は13日、東京・港区で県産ノ二果実を使った新商品「ノ二の黒みつ」のメディア向け試食発表会を開いた。写真。

同社はやんば商品化に向け、協会と連携して糖に約3年漬けた。ハチミツ理用甘味料として発売する予定で、より抗酸化力や含有量は高いと試食会には雑

## はるごころ 風水

厚生労働省発表の13年12月の有効求人倍率は、1.03倍となり、改善傾向が続いています。都道府県別では、最高が愛知県の1.49倍、最低は沖縄県の0.61倍となっています。平成13年11月の現金給与総額は前月比プラス0.6

2012年12月26日に発定した第2次安倍内閣において、デフレからの脱却と景気回復を目指し実施されている政策「アベノミクス」の現在までの成果について代表的な景気指標を用いて確認したいと思えます。

### に見る景気の現状

